

Rotary



国際ロータリー  
第2620地区

御殿場  
ロータリー  
クラブ

# 週報



御殿場  
ロータリークラブ  
モバイルサイト

<https://www.gotemba-rc.gr.jp/>

## 第2641回 例会プログラム

- 例 会 場／東山荘講堂 ●開 会 点 鐘／12：30
- ロータリーソング／奉仕の理想
- 内 容／THE 米山月間

米山記念奨学委員会副委員長 鈴木 善明君

## 会 員 慶 事

- 会員誕生日／11月20日 勝又 博文君
- 夫人誕生日／11月23日 長谷川雅也君 ご夫人 輝美様
- 結婚記念日／11月18日 小早川豊一君 かず代様 ご夫妻
- 11月18日 山口 幸男君 勝子様 ご夫妻
- 11月19日 井上 元君 浩子様 ご夫妻
- 11月22日 芹澤 隆博君 富美枝様 ご夫妻
- 11月24日 斉藤 衛君 真夕美様 ご夫妻

## 会長挨拶

橋本喜市



先日の読売新聞のコラム「編集手帳」に記載されていて、読んだ方も多いと思いますが、その内容が興味を誘いました。内容は、南極大陸で奇妙な「氷の歌」が2018年に発見された、というものです。地質学者が棚氷の変化を監視するために設置した振動センサーが、その音を拾っていました。その音は低周波のノイズで、南極にある巨大なロス棚氷の表面から響いてくると言います。周波数が低く人間の耳では聞くことができなかつたが、音を速めることで音色を表現することが可能になったそうです。

吹き抜ける風が、融解する氷の表面を振動させ、解ける具合により音程を変える。インターネットでその音を聞いてみると、コラムでは、「恐怖映画の効果音や低いうなり声のようだ」と書かれていましたが、まさに言い当てていると思いました。地球温暖化が進み南極の氷床が減り続けているそうです。コラムの筆者は「聞こえてくる歌は、その悲鳴のようだ」と書いています。

温暖化問題を話し合う国際会議が先日開催され、世界の首脳らがイギリスに集まりましたが、先進国と新興国や途上国との対立はなかなか解けないようです。途上国側は、産業革命後、温室効果ガスを大量に排出し続けたのは、先進国側と主張し、中国やインドは豊かになる途上で、エネルギー消費はまだ増やす余地があるとする立場を強調しています。お互いの主張を言い続けている間にどんどん地球は病んでいっています。一個人として、何ができるのか、子や孫や次の代に何が残せるか考える時なのだと思えて考えさせられる「不気味な音」でした。

コラムの最後に、イギリス大学教授の著書の中に「不気味な歌は、どんな演説よりも雄弁に、氷がどれだけ危機にさらされているかを語っていたのだ」と警鐘を鳴らしています。皆さんも一度聞いてみてください。



## 11/11の出席報告

会員数	出席計算に用いた会員数	出席者数	暫定出席率	前々回の確定出席率
55名	51名	44名	86.27%	100%

欠席者 (7名)

※やむを得ず欠席される方は、午前9時50分までにご連絡下さい。



SERVE TO CHANGE LIVES

奉仕しよう

みんなの人生を豊かにするために

次 回  
11月25日の  
例 会

★東山荘講堂 ★12：30点鐘  
★ロータリー財団月間に因んで  
ロータリー財団員会委員長  
斉藤礼志君

## 新入会員卓話



森田 義彦 君

昨年度、Y M C A 東山荘に赴任し、本年3月に入会させて頂きました。どうぞよろしくお願い致します。

私は友人の紹介で横浜 Y M C A を知り、子ども達を対象に事業を行っている組織というだけで試験を受け採用してもらいました。横浜 Y M C A はキャンプや水泳の他に予備校事業、ビジネススクール、カルチャースクール、結婚式場等を展開していました。

水泳や野外活動を行う健康教育部に配属されました。水泳は嫌いではありませんでしたが専門的指導を受けたことなどなく戸惑いました。子どもたちへの指導は楽しく、成長していく姿を見ることに充実感を覚えました。キャンプでは生活を共にし、昼夜子ども達の姿を見ることは楽しいものでした。年数と共に責任も増え Y M C A の本髄を理解するようになりました。それは人の可能性を広げ、人を支える事業を行う組織ということです。入職から10年程経ち活動の場は専門学校に代わり高卒後の若者と接するようになりました。多感な時期で様々な問題を抱えている学生達との活動も楽しかったです。

2000年に横須賀 Y M C A に異動になり地域活動が盛んな地域で市民の方達との関係も深まりました。Y M C A のレイパーソンである運営委員会の活動も盛んでした。会の委員長は小児科の医師で1992年から横浜 Y M C A が行ったミャンマー医療ボランティアの旅の団長も務められていました。2000年、2001年と私も一緒にしましたが楽しく過酷な旅でした。医師が不在の地域を巡り診療奉仕する旅でしたが、色々な事がありました。診察に来た乳児が亡くなったり、軍の人間が常に診察に付きまといて賄賂を求めたり等々。2005年に体調を崩されていた団長が、体調不良のまま出国され現地で亡くなるということがありました。今でも覚えていますが出発時、羽田で今からでも中止してくださいとお願

いしましたが聞き入れられず、出発し現地で胃ろうによる出血で召天されました。この医師の生きざまが私の Y M C A での働きを決定づけました。人の事を思い、コミュニティを支え、それが自身に還ってくるということ。その生きざまが以後の私の指標になり Y M C A で活動を続けられました。

2018年まで横浜 Y M C A で勤務しましたが医師の教えである聖書の言葉があります。「はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(マタイによる福音書25章40節)です。最も小さい者とは幼子、障がいの有る方や高齢者、困窮家庭の方達等社会の弱者を指しています。以前、勝又淳君が S D G s についてお話しされましたが、その中の最初の3つは貧困、飢餓、健康と福祉です。自身の利益だけに固執し、自分と家族だけの富を考えるそのことで社会は成り立たなくなります。富を有している者が他の命を少しでも考えることで社会は救われる気がします。近江商人の三方良しの考え方も一例です。

老医師は自らの命と引き換えにミャンマーの人々の命を支えてきました。この医師の生きざまが私の仕事の進め方を支えてくれています。自身の人生を反省しました。今、私が東山荘に呼ばれたのも何かしらの導きがあったと思っています。雲の上からあの老医師が「今は大変な時だが暫くやってみろ、そのうちにいいことがあるから」と言っている様です。皆さんのお仲間に加えていただけるように、地域の人々にも誠意を持って接したいと思えます。これからどうぞよろしくお願い致します。拙い話をお聞きいただきありがとうございます。



司 会  
勝又 淳君



出席報告  
菅沼良将君